

【和鉄の道・Iron Road】 山科 西野山 walk 2016. 6. 3.

●坂上田村麻呂墓を訪ねる ●西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷

NHKBS 英雄の選択を見ていて、坂上田村麻呂・アテルイについての討論を聞いて、また 無性に懐かしくなって山科西野山の坂上田村麻呂の墓・清水寺のアテルイ・モレの碑を訪ねました。

このスタートに降り立った京都地下鉄柳辻駅の通路にあった紹介パネルで知った名刀「小狐丸」の伝承が残る山科花山稲荷にも合わせて訪ねました。

山科は京都の市街地に隣接して、北に比叡の山並み 西側には東山から稲荷山 東側には逢坂山・音羽山から醍醐の山々に囲まれた盆地で、唯一開けた南は宇治。 京の都と諸国を結ぶ交通の要衝であり、天地天皇陵をはじめとする王城の地でもあった。

和鉄にとっても、盆地の北部 大文字山・比叡と続く山並みには鉄鉱石があり、北側山麓には古代のたたら跡など如意ヶ岳南製鉄遺跡群が点在する製鉄地帯である。また、琵琶湖と京都を結ぶ琵琶湖疎水や東海道の山科の宿などもあり、何度も出かけたことがあるのですが、盆地中央部から南へは通過するばかりで、よく知らぬ場所。

一度歩きたかった西野山山裾walk 合わせて 稲荷山越の道もさがそうと。。。。。

山科 西野山 walk ルート概要

- 京都から山科へ
四条烏丸 == 地下鉄南北線御池駅乗換 == 東西線で山科へ
==山科柳辻駅下車
- 山科 西野山 walk
山科柳辻駅・新十条通・山科川・勧修小・
坂上田村麻呂公園・折上稲荷神社・旧安祥寺川岸・
花山稲荷神社・大石神社・勧修寺・地下鉄小野駅
- 山科から京都東山 清水寺 アテルイ・モレの碑
地下鉄小野駅前 == 京阪バス 国道1号線 == 京都五条坂
清水道・清水寺・アテルイ・モレの碑





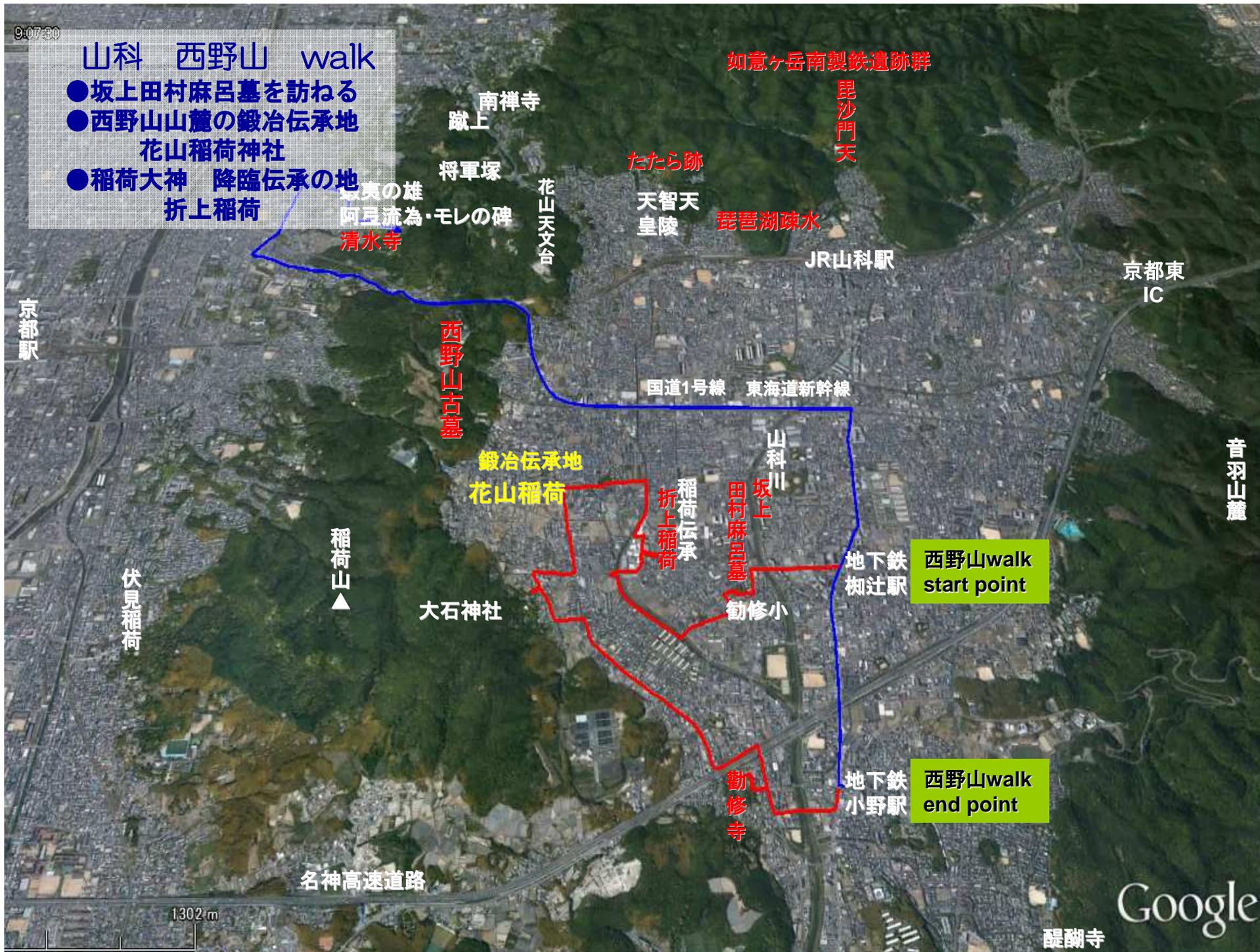
山科 西野山 walk

- 坂上田村麻呂墓を訪ねる
- 西野山山麓の鍛冶伝承地
花山稲荷神社
- 稲荷大神 降臨伝承の地
折上稲荷

9:07:30

山科 西野山 walk

- 坂上田村麻呂墓を訪ねる
- 西野山山麓の鍛冶伝承地
花山稲荷神社
- 稲荷大神 降臨伝承の地
折上稲荷





今の時代に通じる 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論 !!

NHK BS 英雄たちの選択「衝突！その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」

2016.5.26.

出演：磯田道史、赤坂憲雄、里中満智子、宮崎哲弥、鈴木拓也

時は平安遷都を行った桓武天皇の時代。遷都と並ぶ国家プロジェクトが東北の蝦夷の制圧だった。
大きな期待を背負い戦った坂上田村麻呂は、蝦夷のリーダー・アテルイを降伏させることに成功する。

しかし田村麻呂はアテルイから助命を要請される。

朝廷の大反発が予想されるなか命を救う行動にできるか、それとも処刑やむなしと突き放すのか？

国家の方針で蝦夷と衝突し、そして蝦夷の実像を知っていった田村麻呂の苦悩に迫る。

インターネット NHK オンデマンド PR コピーより

アテルイは東北では英雄であるが、他では「鬼」・「悪路王」・「逆賊のリーダー」であり、坂上田村麻呂は逆賊を制圧した英雄である。

敵のリーダーアテルイとモレの度量と人柄を評価していた田村麻呂は まだ帰順せぬ蝦夷たちへの説得工作も視野にあったのだろうと推察されるが、助命を嘆願するも、彼らの謀反を恐れる貴族たちの反対もあり、2人は処刑された。

この場面で、坂上田村麻呂の選択を支持するのか、それとも反対するのか？

4人のコメンテーターがどちらの選択をするのか？ コメンテーターの意見・討論で番組が進む。

「多分 東京や都市圏で仕事をする2人は処刑を選択し、地方で仕事する2人は助命を選択するだろう」と家内に話をしていたのですが、ドンピシャ。 興味深々でつついテレビを見ていました。

当事者意識を捨て、一般常識的には 平和な暮らしが続いている蝦夷の人たちにとっては、突如 仰天の未知なる新しい社会秩序への選択を迫られたわけである。 怒るのもあたりまえであろう。

でも勝手な都合からいうと 喉から手が出るほど新秩序に組み込みたい。「小を殺して大をとる」と。

この構図は沖縄問題・東京と地方・アフガニスタン&中東紛争 そして もっと直近では東京都知事問題にあまりにも極似していることに驚く。

右/左・2/1選択は当事者意識のぶつかり合い。必ずしも真ならず。

相手の暮らしを考えず、自分の暮らす社会の常識だけを判断根拠とする今の社会は本当に正しいのだろうか。

最後に東北学を提唱推進されてきた赤坂憲雄氏は「坂上田村麻呂・アテルイは 二人して次の時代を切り開いた英雄に違いない。これ以後 中央政権は秋田城・志波城をつくり、さらに北進してゆくが、武力での制圧を捨て、同化政策を採っていったことにも、大きな影響を与えたに違いない。現代社会も彼らに学ぶことがある」と結ばれたのが、強く心に残る。

久しぶりに聞く「アテルイ・坂上田村麻呂」。そして坂上田村麻呂の墓が山科西野山古墓と知って、晴天の6月3日 清水寺のアテルイ・モレの碑 そして山科西野山古墓に出会いたくなって、山科から京都へ出かけてきました。



蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂

和鉄の道・Iron Road <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf> Page3 より

8世紀末頃まで、東北北上川流域を日高見国といい、大和朝廷の勢力圏外にあり、独自の生活と文化を形成していた。当時 大和朝廷は服属しない東北の民を蝦夷と呼び、蔑視してその計略のため数次にわたり、巨万の征夷軍を動員した。胆沢(岩手県水沢市地方)の族長「アテルイ」は近隣の部族を連合して10数年にわたりこの侵略を頑強に阻止した。中でも789年の巢伏の戦いでは勇猛果敢に奮闘して征夷軍に壊滅的な打撃を与え、蝦夷の英雄と称された。征夷大將軍となって東北に赴いた坂上田村麻呂は和戦量戦略を用いつつ、801年 数万の将兵を動員してアテルイを打ち破り、ここに蝦夷攻撃は終り東北経営の拠点として胆沢城が築かれた。

「アテルイ」は十数年に及ぶ激戦に疲弊した郷を憂慮し、盟友「モレ」と同胞500余名と共に降伏、田村麻呂に従って平安京に上った。田村麻呂は蝦夷の両雄の武勇と器量を惜しみ、東北経営に登用すべく朝廷に助命嘆願したが、公家たちに反対され、「アテルイ」「モレ」の両雄は802年に河内の国で処刑された。

田村麻呂は深く帰依し、造営につくしたゆかりの「清水寺」でこの二人や敵味方の将兵の霊にその誠を呈して祈念を重ねたという。また、清水寺の後には京都東山連邦が連なり、その中央部のなだらかな山の上に「將軍塚」がある。

將軍塚からは京都全体が一望でき、桓武天皇が平安京造営を決断した場所といわれる。

そして、長く都を護る祈りを込めて土の武将像・坂上田村麻呂を作り、その甲冑を着せ、鉄の弓矢・太刀を持たせてここに埋めたといわれ「將軍塚」の名がついた。山の中央部にその古い円形の將軍塚があり、また頂上部の大日堂にはこの山から出土した平安初期の大日如来石像が祭られている。

なお、坂上田村麻呂の墓は京都市山科区にある坂上田村麻呂公園内にある西野山古墓が墓所と推定されている。

平安後期編纂の「清水寺縁起」に墓の位置を「山城国宇治郡七条咋田西里栗栖村の水田、畑、山を与える」という文言があり、この場所は今の山科区西野山岩ヶ谷町にあたり、西野山古墓の場所と一致するという。

西野山古墓は清水寺から南東約2キロの山科盆地西部にあり、8世紀後期から9世紀前期と見られ、田村麻呂の時代と一致する。大正8年に墓穴が見つかり、内部から、武人の墓にふさわしい純金の装飾を施した大刀や金銀の鏡、鉄の鏃などの副葬品が出土し、京都大総合博物館に所蔵されている。

一番最初にアテルイの名が出てくる「続日本書紀」では「賊帥夷阿弭流為 賊の大將 蝦夷のアテルイ」となっているのが後の編纂になるや「類聚国史」や「日本紀略」では「夷大墓公阿弭流為」と「公」という姓を与えられ、蝦夷の統率者として遇されており、その人物像には多くのなぞが残されていて、かつ 魅力的な人物である。

一般歴史では「悪路王」と呼ばれ、田村麻呂の影で悪者とされてきた「アテルイ」であるが、東北では自分たちのオリジンとしての連帯の中「坂上田村麻呂を信じ、更なる騒乱による犠牲と荒廃をさけて自ら投降し、平和共存を願うアテルイ」と広くを愛してきた。そして、平成6年にアテルイの復権に賭けた人たちの熱い運動で、田村麻呂ゆかりの京都清水寺の境内に「アテルイ・モレ」の顕彰碑が建てられた。

■ 参考 「和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪【Ⅳ】」6.蝦夷の鉄 東北 和鉄の道

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/4iron06.pdf>

■ 参考 「蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂」

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf>



蝦夷の雄「阿弖流為・アテルイ」への東北の人たちの強い連帯感

古代東北は資源王国。この東北の資源をねらって大和朝廷の蝦夷征伐が始まった。

蝦夷たちが手にした蕨手刀は弧状にそり、切る刀への日本刀のルーツ。戦いに敗れた蝦夷の技術集団は俘囚となって、日本各地に散らばって、たたら製鉄・刀鍛冶の技術を日本全国に広めた。出羽鍛冶・舞草鍛冶などの名が広く日本各地に残る。

「アテルイ」の実像を示す資料はほとんど残されていないが、アテルイ復権の運動が今も広がっている

東北に通って「和鐵」について歩いているうちに「日高見の鬼」と呼ばれる蝦夷の族長「アテルイ」に東北の人たちが親しみを込め、熱っぽく語るその人物像ならびに「アテルイ」への強い連帯にビツクリ。

アテルイの生涯と蝦夷の戦いを熱っぽく描いた盛岡在住の高橋克彦氏の小説「火怨」があり、

東北人の思いを込めたアニメ映画「アテルイ」の原案でもあり、

東北人で語られてきた「蝦夷観」「田村麻呂と蝦夷との交流」ほか当時の東北の事情が良く描かれている。



「アテルイは親・兄弟を愛し、美しい自然を愛すために生きた。
21世紀の人間がどう生きるかという大切なメッセージがある」

岩手県民総参加製作の長編アニメ映画「アテルイ」のメッセージより

岩手県北上市の市民憲章より

「あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の讃歌

この台地 燃えたついのち ここは北上」

北上市市民憲章
あの高嶺 鬼住む誇り
その瀬音 久遠の讃歌
この大地 燃えたついのち
ここは北上



清水寺にあるアテルイ・モレの顕彰碑



坂上田村麻呂の墓 西野山古墓 & 勸修小隣接 坂上田村麻呂公園内の墓

大正8年(1919年)に地元住民が竹林に土入れ作業をしていたところ、偶然に上部と周囲が木炭で覆われた木棺墓を発見、京都大学により発掘調査が行われ、金銀平脱双鳳文鏡、金装大刀、鉄鏃などの副葬品が発見された。

周辺が中臣氏の根拠地であることから、被葬者はその一族とされていたが、昭和48年(1973年)に地元の歴史考古学研究者である鳥居治夫は、条里制の復元研究結果にもとづき同墓が坂上田村麻呂(758年~811年)の墓である可能性を指摘した。

平成19年(2007年)、京都大学大学院文学研究科の吉川真司教授が清水寺縁起の弘仁2年(811年)10月17日付の太政官符表題の記述と当時の地図(条里図)を基にした山城国宇治郡山科郷古図(東京大学蔵)とを照合することで坂上田村麻呂墓説を裏付けた。

銀平脱双鳳文鏡1面、金装大刀1振、鉄鏃、鉄刀子、鉄釘、鉄板2枚、用途不明鉄製品、硯1点、水滴1点、石帯破片、漆箱、桐箱。これら副葬品は第1発見者から京都大学に寄贈され、昭和28年(1953年)に山科西野山古墓出土品として一括して国宝に指定



なお 平安遷都1100年を記念して明治28年(1985)に整備された「坂上田村麻呂の墓」が、古墓の南東1.5kmにある。

現在、マウンド状の土盛りが造られていて京都市が公園として管理している。

しかし、考古学調査が行われたことはなく、マウンドは田村麻呂の時代より古い古墳時代の墳墓の可能性が指摘されている。また、西野山古墓も竹やぶで覆われ、正確な位置がよくわからぬという。



手前の竹やぶが西野山古墓(×印)、上方の○印が清水寺



西野山古墓の正しい位置が発掘後、時を経て不明となりましたが、現在は発掘調査が行われた場所近くに、石碑が建てられているという。

この西野山古墓は、道幅が狭い割に交通量が多い滑石街道のまるでサーキットのようなヘアピンカーブに面して位置し、とても歩いて行ける場所でないという、



坂上田村麻呂の墓とみられる西野山古墓



坂上田村麻呂公園内
地元で傳承されてきた坂上田村麻呂の墓



京都市小学校
下京涉成小

京都女子大

京都市立花山

蓮華王院 三十三間堂

東海道本線

宮内庁遍照墓

ホテル 京阪 京都

京都市立西

滑石越

118

西野山古墓

京都市立百々小



西野山古墓 府道118号線 滑石越
山科側から滑石越の山道に入って狭い急な坂道を上り、アピンのカーブを曲がるころの竹やぶに西山古墓が眠る
京都府道118号線は、伏見稲荷の北側を通過して東山区と山科区を結ぶ道路で、「滑石越」と呼ばれる。
醍醐道、滑石街道、山科街道とも呼ばれる。

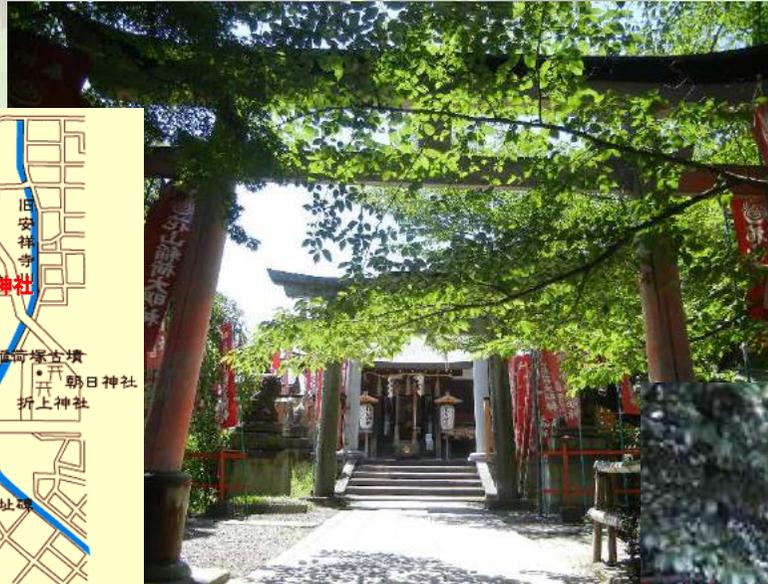
Google

山科



山科 花山稲荷神社 「稲荷塚」稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説

謡曲「小鍛冶」 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神



京都市地下鉄東西線栂辻駅地下通路 山科花山稲荷神社 名刀「小狐丸」の伝説
能「小鍛冶」の伝説として ほかの地にも伝承されている

三条小鍛冶が作ったと伝承される鍛冶場伝承地 達光宮が祭られている「稲荷塚」

本殿 右側の赤い玉垣の中にあり、「稲荷塚」の石碑と元禄十二年(1699年)の銘のある石灯籠の基部が残る。
また、この辺りは環濠の跡も残る中臣遺跡の北端にあたり、弥生時代後期の円墳と言われる。達光宮の御祭神などと考え合わせると、稲荷大神を勧請する前から鍛冶(製鉄)の神として祭られていたようにも思われます 花山稲荷神社ホームページより



京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説 謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部 大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れ下る山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。また、この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。以前 この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも 古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回 西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄 柳辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルをみつけ、一緒に訪ねてきました。

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980~1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為に、橘道成を勅使として遣わされました。宗近は宣旨を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすぐるより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。

宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調べて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。





花山稲荷神社のお火焚き・ふいご祭り 花山稲荷神社ホームページより

11月第2日曜（平成28年11月13日）

平安時代の三条小鍛冶宗近の故事に因むもので、火焚串（護摩木）を独特の形に積み上げ、焚き上げる

花山稲荷神社は 古くから金物と神様としても有名で、かつて三条小鍛冶宗近が、当地の埴土で「ふいご」を築き、花山大神の御神助により一世一代の名剣「小狐丸」を鍛えたといわれ、その後伝え聞いた諸国の鍛冶師たちは先を争って当社に参詣したと伝えられている。

本殿横には赤い玉垣に囲まれて、花山稲荷神社以前からあった古墳(円墳)があり、三条小鍛冶宗近の築いた鍛冶場跡と伝承され、稲荷塚と呼ばれてきた。その前に、鉄に携わる人たちの信仰を集めてきた末社達光宮があり、祭神として 芸事、弁才、手先の技術の守護神 市杵島比売大神 鍛冶師の守り神金山比古大神、金山比売大神、天目一筒大神をまつり、この後ろには、稲荷塚の石碑と元禄12年銘のある灯籠の台座が現存。

火焚祭では三条小鍛冶宗近の故事にちなんで古くから火焚串を「ふいご」の形に積んで焚かれる。



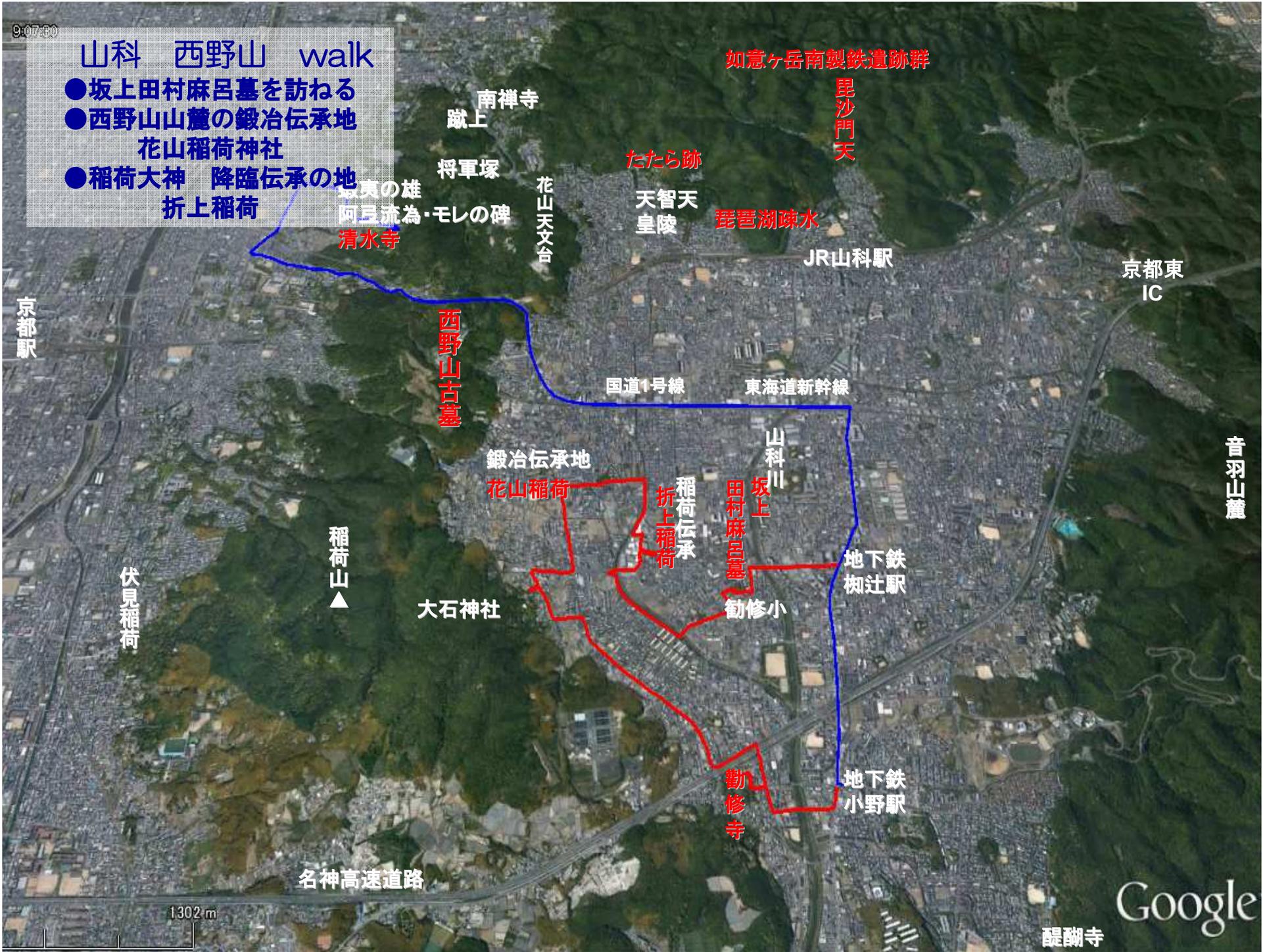
遠い昔、稲作がわが国に伝えられたころ、稲荷の神様が直接「ふいご」を操ったとはまず考えられませんが、「ふいご」で作りだされた様々な鉄製農機具が稲作に不可欠な道具と考えられるようになってから、稲荷の神と「ふいご」の共存共栄が始まり、もともと金物の神の祭りであった火焚祭が2000年もの間、最重要産業であった稲作の守護神として多大な敬意をはらわれてきた稲荷の神様の祭りとして後世に伝わったものと考えられます。

花山稲荷神社ホームページより

9:07:30

山科 西野山 walk

- 坂上田村麻呂墓を訪ねる
- 西野山山麓の鍛冶伝承地
花山稲荷神社
- 稲荷大神 降臨伝承の地
折上稲荷





【和鉄の道・Iron Road】 山科 西野山 walk 2016. 6. 3.

●坂上田村麻呂墓を訪ねる ●西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷

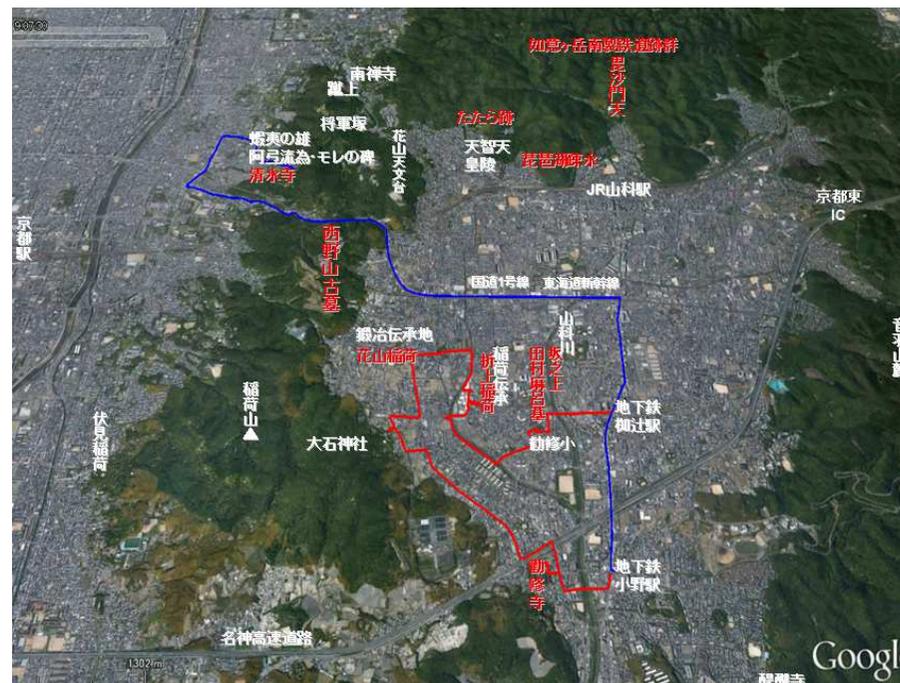
NHKBS 英雄の選択を見ていて、坂上田村麻呂・アテルイについての討論を聞いて、また 無性に懐かしくなって山科西野山の坂上田村麻呂の墓・清水寺のアテルイ・モレの碑を訪ねました。
このスタートに降り立った京都地下鉄柳辻駅の通路にあった紹介パネルで知った名刀「小狐丸」の伝承が残る山科花山稲荷にも合わせて訪ねました。

山科は京都の市街地に隣接して、北に大文字・如意ヶ岳の山並み 西側には東山から稲荷山 東側には逢坂山・音羽山から醍醐の山々に囲まれた盆地で、唯一開けた南は宇治。京の都と諸国を結ぶ交通の要衝であり、天地天皇陵をはじめとする王城の地でもあった。

和鉄にとっても、盆地の北部 大文字山・如意ヶ岳・長等山と続く山並みには鉄鉱石があり、北側山麓には古代のたたら跡など如意ヶ岳南製鉄遺跡群が点在する製鉄地帯である。また、琵琶湖と京都を結ぶ琵琶湖疎水や東海道の山科の宿などもあり、何度も出かけたことがあるのですが、盆地中央部から南へは通過するばかりで、よく知らぬ場所。一度歩きたかった西野山山裾walk 合わせて 稲荷山越の道もさがそうと……………。

山科 西野山 walk ルート概要

- 京都から山科へ
四条烏丸 == 地下鉄南北線御池駅乗換 == 東西線で山科へ == 山科柳辻駅下車
- 山科 西野山 walk
山科柳辻駅…新十条通…山科川…勸修小…
坂上田村麻呂公園…折上稲荷神社…旧安祥寺川岸…
花山稲荷神社…大石神社…勸修寺…地下鉄小野駅
- 山科から京都東山 清水寺 アテルイ・モレの碑
地下鉄小野駅前 == 京阪バス 国道1号線 == 京都五条坂
清水道…清水寺…アテルイ・モレの碑





<1> 坂上田村麻呂墓(伝承)がある坂上田村麻呂公園へ



山科 西野山walkの出発点 柳辻駅前
東西に延びる新十条通北角 2016.6.3. 11:32



新十条通を西へ 山科盆地の西の壁 稲荷山が正面に見える
この山の下一帯が西野山山麓である

2016.6.3.



新十条通 まっすぐ稲荷山にぶち当たった西野山で 阪神高速8号京都線山科出入口
そのままトンネルで稲荷山を抜け京都市街側伏見稲荷駅横の鴨川(東・西)へ 2016.6.3.

北西の山の頂上に
京大花山天文台が見える



北側 大文字山・如意ヶ岳と続く山科北の山並みが続く



南側 東の壁音羽山 醍醐から宇治への山並みが続く



山科盆地の中央を北から南へ流れ下る山科川 柳辻橋で 2016.6.3. 11:39
かつては砂鉄が採れたと聞きましたが、改修が進んだ川 全く砂鉄の姿は見えぬ





柳辻橋のすぐ西に新十条西野道の十字路 これを西に行ったところが勸修小学校
地図に坂上田村麻呂墓と記された坂上田村麻呂公園への入り口 2016.6.3.



新十条通から南へ折れて 西野道を南へ 2016.6.3.
中央樹木が見えているところが勸修小学校である



勸修小学校前 2016.6.3.
勸修小学校の手前住宅の間の道を奥に入ったところが坂上田村麻呂講演でした



勸修小学校前の公園にある中臣遺跡の案内板 2016.6.3.

この西野山山麓一帯が中臣氏(後の藤原氏の本拠地)と知れる

中臣遺跡 (なかとみいせき)

～洛東最大の集落遺跡～



中臣遺跡は、後期旧石器時代（約20,000年前）【写真1】から室町時代（約500年前）に及ぶ、山科盆地の中心的な集落遺跡です。遺跡は東を山科川、西を旧安祥寺川で囲まれて、両河川の合流点より北側に広がっています。

この市営住宅の建て替えに伴い、1998年11月から2000年3月まで中臣遺跡第79次の発掘調査を行ないました。検出遺構の主なものには、古墳時代後期から平安時代にかけての

古墳や土壙墓などの墓跡と、竪穴建物や掘立柱建物などの集落を構成する建物跡があります【写真2】。古墳は主として方墳で、5世紀中頃から6世紀初頭のものが見つかりました。墳丘と埋葬部は失われていましたが、周溝が残存し、周溝の一画に葬儀や祭祀に関わると思われる須恵器5～6個を納めた遺構が見つかりました。また、土壙墓と呼ばれる細長い穴だけの墓も8基検出し、その内の一つから、朝鮮半島の舌地域で作られたと考えられる甕が出土しています【写真3】。古代の山科地域と朝鮮半島との交流を示す資料として、貴重なものです。この他にも6世紀末から8世紀初頭の竪穴建物【写真4】64棟、7世紀中頃から9世紀にかけての掘立柱建物26棟を検出し、古墳時代後期から平安時代に続く集落の様子が明らかになりました。

中臣鎌足らを出した中臣氏（後の藤原氏）の本拠地であり、そしてまた大津宮や平安宮の隣接地である山科盆地は、歴史的に重要な役割を果たした地域です。中臣遺跡は、その証拠に満ちた貴重な遺産と言えるものなのです。

2001年12月10日 京都市

(資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所)

あまり登ったようには思いませんでしたが、向いの山などが見えるとここはやっぱり西野山の傾斜地です





勸修小学校の一筋北 住宅の間を抜けると
坂上田村麻呂公園の横に出る 2016.6.3.



坂上田村麻呂の墓 伝承 坂上田村麻呂公園 将軍塚





坂上田村麻呂公園 2016.6.3. 12:00
住宅地の真ん中にぽっかり緑に包まれた静かな公園
その中央の石柵に囲まれて 坂上田村麻呂の墓(伝承)とする土盛がありました



坂上田村麻呂公園 2016.6.3. 12:00

住宅地の真ん中にぽっかり緑に包まれた静かな公園

その中央の石柵に囲まれて 坂上田村麻呂の墓(伝承)とする土盛がありました



さかのうえのたむら まろ
坂上田村麻呂の墓

この墓には、平安前期の武将坂上田村麻呂を葬っている。田村麻呂は、奈良時代の武将坂上田村麻呂の子。延暦二十年（八〇一）、当時の日本では大きな問題となっていた蝦夷地を平定するため征夷大將軍に任命され、遠く陸奥に出兵し、これを治めて大変な功績をあげた。

京都にあっても弘仁元年（八一〇）の葉子の乱などに活躍し、官職は右近衛大将にいたった。弘仁二年五月二十三日死去、五十四才。この地で葬儀が営まれ、嵯峨天皇の勅によって甲冑・剣や弓矢を具した姿で棺に納められ、平安京にむかって立ったまま葬られた。

田村麻呂はまた仏教の信仰も深く、清水寺を創建したことで有名である。

なお、この墓地は、明治二十八年平安遷都千百年祭にさいし整備されたものである。

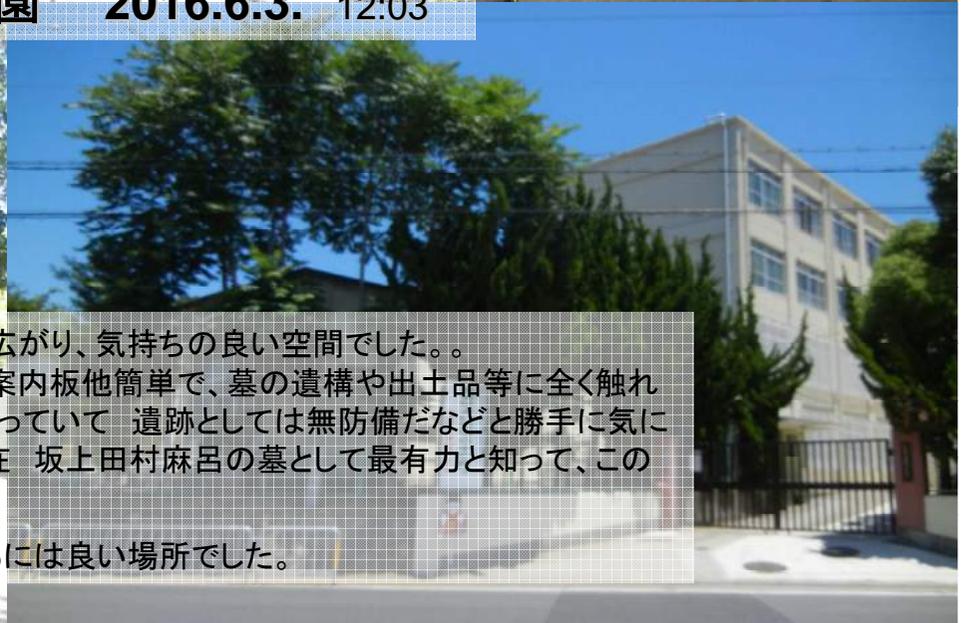
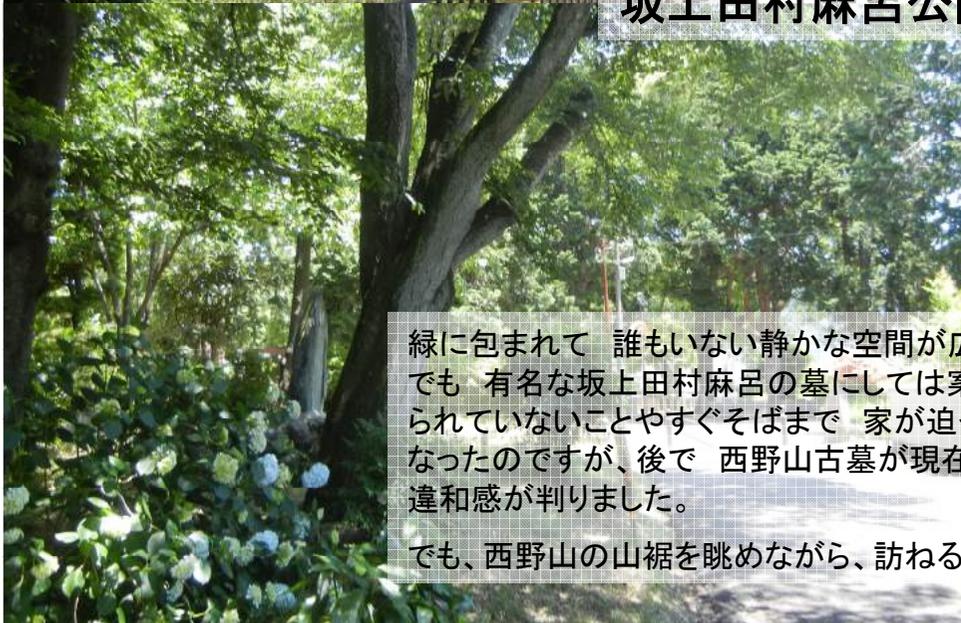
京都市

坂上田村麻呂の墓
この墓には、平安前期の武将坂上田村麻呂を葬っている。田村麻呂は、奈良時代の武将坂上田村麻呂の子。延暦二十年（八〇一）、当時の日本では大きな問題となっていた蝦夷地を平定するため征夷大將軍に任命され、遠く陸奥に出兵し、これを治めて大変な功績をあげた。
京都にあっても弘仁元年（八一〇）の葉子の乱などに活躍し、官職は右近衛大将にいたった。弘仁二年五月二十三日死去、五十四才。この地で葬儀が営まれ、嵯峨天皇の勅によって甲冑・剣や弓矢を具した姿で棺に納められ、平安京にむかって立ったまま葬られた。
田村麻呂はまた仏教の信仰も深く、清水寺を創建したことで有名である。

よく知らなかったのですが、この墓は地元の古くからの伝承に基づいて 平安遷都千百年祭に公園整備されたものと聞く。その後、ここから北西約2km の西野山の竹林で 大正8年（1919年） 偶然に上部と周囲が木炭で覆われた木棺墓を発見、京都大学により発掘調査が行われ、金銀平脱双鳳文鏡、金装大刀、鉄鏃などの副葬品が発見され、西野山古墓と名付けられた。そして、その後の種々調査から、今では 西野山古墓が むしろ坂之上田村麻呂の墓として 有力視されている。



坂上田村麻呂公園 2016.6.3. 12:03



緑に包まれて 誰もいない静かな空間が広がり、気持ちの良い空間でした。
でも 有名な坂上田村麻呂の墓にしては案内板他簡単で、墓の遺構や出土品等に全く触れられていないことやすくそばまで 家が迫っていて 遺跡としては無防備などと勝手に気になったのですが、後で 西野山古墓が現在 坂上田村麻呂の墓として最有力と知って、この違和感が判りました。

でも、西野山の山裾を眺めながら、訪ねるには良い場所でした。

◆参考 坂上田村麻呂の墓とされる西野山古墓

大正8年(1919年)に地元住民が竹林に土入れ作業をしていたところ、偶然に上部と周囲が木炭で覆われた木棺墓を発見、京都大学により発掘調査が行われ、金銀平脱双鳳文鏡、金装大刀、鉄鏃などの副葬品が発見された。

周辺が中臣氏の根拠地であることから、被葬者はその一族とされていたが、昭和48年(1973年)に地元の歴史考古学研究者である鳥居治夫は、条里制の復元研究結果にもとづき同墓が坂上田村麻呂(758年~811年)の墓である可能性を指摘した。

平成19年(2007年)、京都大学大学院文学研究科の吉川真司教授が清水寺縁起の弘仁2年(811年)10月17日付の太政官符表題の記述と当時の地図(条里図)を基にした山城国宇治郡山科郷古図(東京大学蔵)とを照合することで坂上田村麻呂墓説を裏付けた。

銀平脱双鳳文鏡1面、金装大刀1振、鉄鏃、鉄刀子、鉄釘、鉄板2枚、用途不明鉄製品、硯1点、水滴1点、石帯破片、漆箱、桐箱。これら副葬品は第1発見者から京都大学に寄贈され、昭和28年(1953年)に山科西野山古墓出土品として一括して国宝に指定



なお 平安遷都1100年を記念して明治28年(1985)に整備された「坂上田村麻呂の墓」が、古墓の南東1.5kmにある。

現在、マウンド状の土盛りが造られていて京都市が公園として管理している。

しかし、考古学調査が行われたことはなく、マウンドは田村麻呂の時代より古い古墳時代の墳墓の可能性が指摘されている。また、西野山古墓も竹やぶで覆われ、正確な位置がよくわからぬという。



手前の竹やぶが西野山古墓(×印)、上方の○印が清水寺



西野山古墓の正しい位置が発掘後、時を経て不明となりましたが、現在は発掘調査が行われた場所近くに、石碑が建てられているという。

この西野山古墓は、道幅が狭い割に交通量が多い滑石街道のまるでサーキットのようなヘアピンカーブに面して位置し、とても歩いて行ける場所でないという、



坂上田村麻呂の墓とみられる西野山古墓



坂上田村麻呂公園内
地元で傳承されてきた坂上田村麻呂の墓

◆ 参考 坂上田村麻呂の墓が有力視される 西野山古墓

選挙立所 二丁二間至



滑石越

西野山古墓

京都市立百々小

西野山古墓 府道118号線 滑石越
山科側から滑石越の山道に入って狭い急な坂道を上り、アピ
カーブを曲がるころの竹やぶに西山古墓が眠る
京都府道118号線は、伏見稲荷の北側を通過して東山区と山科区
を結ぶ道路で、「滑石越」と呼ばれる。
醍醐道、滑石街道、山科街道とも呼ばれる。

Google

山科



<2> 稻荷の大神降臨伝承地 折上神社へ



坂上田村麻呂公園を出て まっすぐ西へ西野山の山麓へ向かうと山科川に合流する旧安祥寺川。

川の向こうには山沿いの傾斜地に大きな西野山団地が広がっていました。

旧安祥寺川 西野山団地 西金ヶ崎橋周辺 2016.6.3. 12:09



旧安祥寺川 西野山団地 西金ヶ崎橋より、東の音羽山の山並 2016.6.3. 12:09



旧安祥寺川に沿って 川沿いの遊歩道を北へ 2016.6.3.
新十条通りの北にある折上稲荷神社へ向かう



旧安祥寺川にかかる射場の上橋のたもと 新十条通 2016.6.3. 12:30
ここを東へ川を渡ると 北側に折上神社の入口



新十条通を旧安祥寺川にかかる射場の上橋を渡り東へ 2016.6.3.
北側に折上神社の入口



折上稲荷神社

稲荷の主神である倉稲魂神は二柱を祭神とする。

山科稲荷、伏見稲荷奥の宮とも呼ばれ、社伝によれば、伏見稲荷の大神が和銅四年(七一二)に降臨した際、稲荷山の三ヶ峯の次に降りたのが、当社境内の稲荷塚(六世紀・京都市遺跡)といわれている。

山に對する信仰と生産の信仰が一体となって稲荷信仰が生まれたと考えられ、極めて古い我が國の民間信仰の姿をとどめている。

幕末、孝明天皇は大嘗祭に際し、長橋局など女官の病氣平癒を祈願し、長命箸を奉納した。以来、女性守護のお稲荷さんともいわれ、アメリカの大富豪モルガンと結婚して異國で数奇な運命をたどり、日本の女性、とりわけ京の女性の名前を世界に広めた祇園の芸妓・モルガンお雲など、働く女性の守り神として信仰されている。



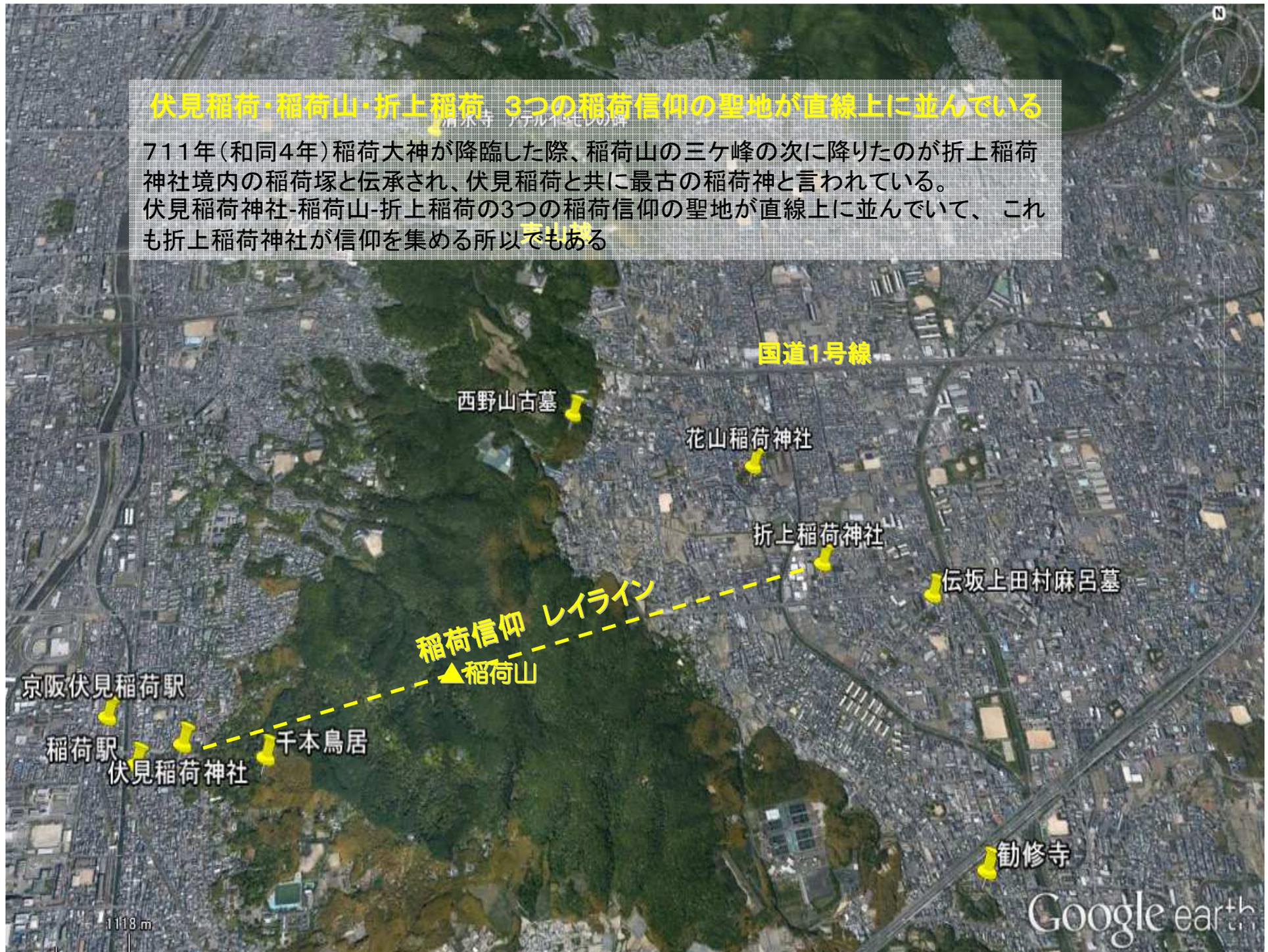
稲荷の大神降臨伝承地 折上神社

伏見稲荷の奥の宮とされる折上稲荷神社 左の森が稲荷塚 2016.6.3. 12:35

折上稲荷神社境内の稲荷塚(京都市史跡)は約1,500年前のもので、稲荷神の前身、祖先神(田の神)がお祀りされていた聖地。後の711年(和同4年)稲荷大神が降臨した際、稲荷山の三ヶ峰の次に降りたのが境内の稲荷塚と伝承され、伏見稲荷と共に最古の稲荷神と言われている。山に対する信仰と生産の信仰が一体となって生まれたと考えられ、きわめて古い民間信仰の姿をとどめているといわれる。

伏見稲荷・稲荷山・折上稲荷 3つの稲荷信仰の聖地が直線上に並んでいる

711年(和同4年)稲荷大神が降臨した際、稲荷山の三ヶ峰の次に降りたのが折上稲荷神社境内の稲荷塚と伝承され、伏見稲荷と共に最古の稲荷神と言われている。伏見稲荷神社-稲荷山-折上稲荷の3つの稲荷信仰の聖地が直線上に並んでいて、これも折上稲荷神社が信仰を集める所以でもある





<3> 西野山山麓 山科の鍛冶伝承地 花山稲荷神社へ



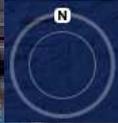
福田金属箔工場群の間を北に抜け、再度旧安祥寺川岸に出て 花園稲荷神社へ向かう



旧安祥寺川岸からは 北西の山の頂上に京大花山天文台が再度見える



安祥寺川沿いを少し北へ行った西
小さな歩行橋を渡って鳥居に向かう
川向うに花山稲荷の鳥居が見え、
2016.6.3.



花山稲荷神社の全景 google photo

花山稲荷
社殿

名刀子狐丸
伝鍛冶場跡
稲荷塚

南参道入口





西野山山麓 鍛冶伝承地 名刀「子狐丸」伝説の花山稲荷神社



鳥居から緑のトンネルの中を長い坂道が、まっすぐ西野山の傾斜地を登ってゆく。

この奥に花山稲荷神社の社殿があり、その隣本殿横には赤い玉垣に囲まれて、花山稲荷神社以前からあった古墳(円墳)があり、三条小鍛冶宗近の築いた鍛冶場跡と伝承され、稲荷塚と呼ばれてきた。



京都市地下鉄東西線柳辻駅地下通路 山科花山稲荷神社 名刀「小狐丸」の伝説
能「小鍛冶」の伝説として ほかの地にも伝承されている









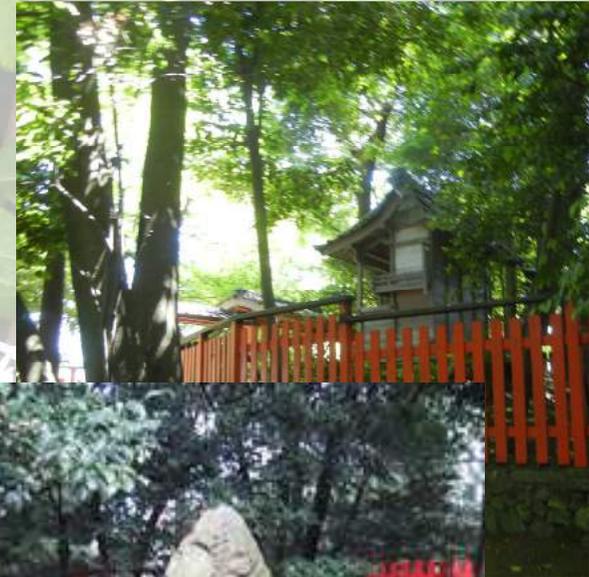
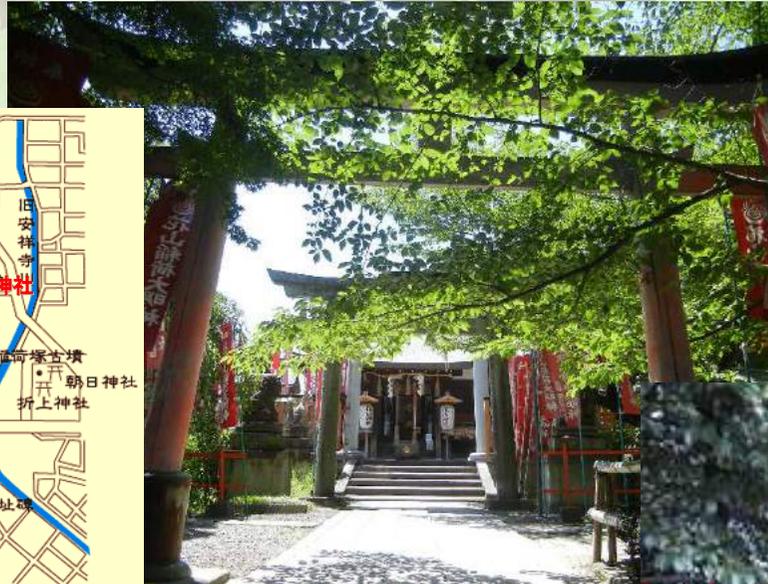
名刀「子狐丸」伝伝説の花山稲荷神社 2016.6.3. 12:47

鳥居から緑のトンネルの中を長い坂道が、まっすぐ西野山の傾斜地を登ってゆく。
この本殿 右横には緑の森の中に、花山稲荷神社以前からあった古墳(円墳)が赤い玉垣に囲まれてあり、
赤い玉垣に囲まれた古墳頂上部が、三条小鍛冶宗近の築いた鍛冶場跡と伝承され、稲荷塚と呼ばれてきた。



稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説が残る山科花山稲荷「稲荷塚」

謡曲「小鍛冶」 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神



京都市地下鉄東西線栂辻駅地下通路 山科花山稲荷神社 名刀「小狐丸」の伝説
能「小鍛冶」の伝説として ほかの地にも伝承されている

三条小鍛冶が作ったと伝承される鍛冶場伝承地 達光宮が祭られている「稲荷塚」

本殿 右側の赤い玉垣の中にあり、「稲荷塚」の石碑と元禄十二年(1699年)の銘のある石灯籠の基部が残る。また、この辺りは環濠の跡も残る中臣遺跡の北端にあたり、弥生時代後期の円墳と言われる。達光宮の御祭神などと考え合わせると、稲荷大神を勧請する前から鍛冶(製鉄)の神として祭られていたようにも思われます 花山稲荷神社ホームページより

京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説 謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部 大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れ下る山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。また、この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。以前 この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも 古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回 西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄 柳辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルを見つけ、一緒に訪ねてきました。

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980~1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為に、橘道成を勅使として遣わされました。宗近は宣旨を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすがるとより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。

宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調べて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。



花山稲荷神社のお火焚き・ふいご祭り 花山稲荷神社ホームページより

11月第2日曜（平成28年11月13日）

平安時代の三条小鍛冶宗近の故事に因むもので、火焚串（護摩木）を独特の形に積み上げ、焚き上げる花山稲荷神社は 古くから金物と神様としても有名で、かつて三条小鍛冶宗近が、当地の埴土で「ふいご」を築き、花山大神の御神助により一世一代の名剣「小狐丸」を鍛えたといわれ、その後伝え聞いた諸国の鍛冶師たちは先を争って当社に参詣したと伝えられている。

本殿横には赤い玉垣に囲まれて、花山稲荷神社以前からあった古墳(円墳)があり、三条小鍛冶宗近の築いた鍛冶場跡と伝承され、稲荷塚と呼ばれてきた。その前に、鉄に携わる人たちの信仰を集めてきた末社達光宮があり、祭神として 芸事、弁才、手先の技術の守護神 市杵島比売大神 鍛冶師の守り神金山比古大神、金山比売大神、天目一筒大神をまつり、この後ろには、稲荷塚の石碑と元禄12年銘のある灯籠の台座が現存。

火焚祭では三条小鍛冶宗近の故事にちなんで古くから火焚串を「ふいご」の形に積んで焚かれる。



遠い昔、稲作がわが国に伝えられたころ、稲荷の神様が直接「ふいご」を操ったとはまず考えられませんが、「ふいご」で作りだされた様々な鉄製農機具が稲作に不可欠な道具と考えられるようになってから、稲荷の神と「ふいご」の共存共栄が始まり、もともと金物の神の祭りであった火焚祭が2000年もの間、最重要産業であった稲作の守護神として多大な敬意をはらわれてきた稲荷の神様の祭りとして後世に伝わったものと考えられます。

花山稲荷神社ホームページより



花山稲荷神社境内 古墳の周りにある塚・摂社



本殿すぐ横にある達光宮



玉垣の中にある稲荷塚の石碑

花山稲荷神社の本殿 右奥に古墳があり、その頂上部 赤い玉垣に囲まれて、稲荷塚の碑がある。ここが刀匠三条小鍛冶宗近の鍛冶場伝承地。また、達光宮の社殿全体が円墳の上に建てられているといい、祭神は市杵島比売大神、金山比古大神、金山比売大神、天目一筒大神。また境内は特に広くはありませんが、神社全体が緑に包まれた丘の上。達光宮をはじめ、さまざまな摂社・塚が所狭しと頂上部をバックに立ち並び、厳かな雰囲気漂っている。いかにも 古い由緒ある神社であるが、案内板の類は全くなし。

柳辻駅の鍛冶伝承タイルと周辺案内地図を見なかったら、見過ごしていたところでした。



達光宮の正面



薬丸大神



熊丸神社



御嶽大神

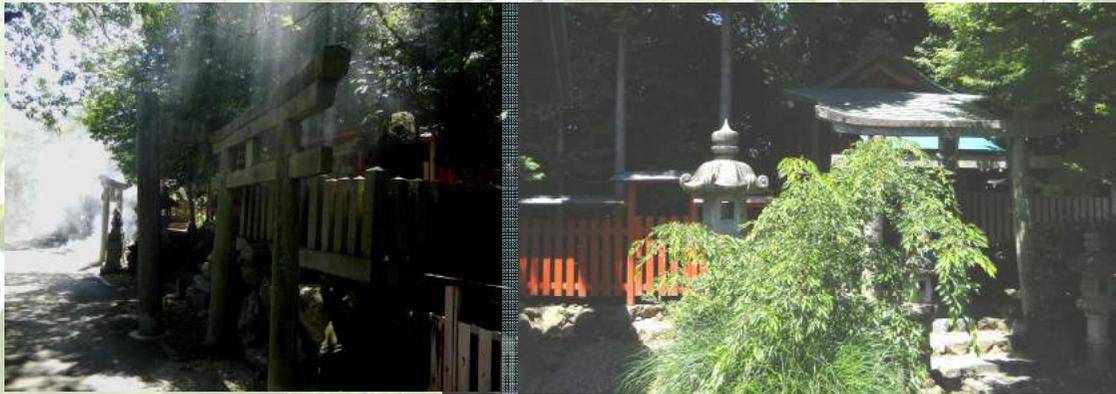


緑に包まれた静かな森の中に、稲荷神社の本殿とは別に たくさんの神々をまつり、鍛冶伝承ばかりでなく、大石内蔵助伝承 そして、その起源をたどると境内にある古墳 そして 鍛冶伝承も稲荷山信仰と結びついたものと聞く。境内を歩いていて こんがらがって……。

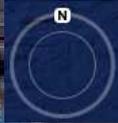
境内の落ち葉掃除をしている神社のおばさんに話しかけて、古墳のこと また この地が中臣遺跡の北端で環濠が残っていることなど色々教えてもらって、もう一赤い玉垣で囲われた古墳の周りを一周する。

本当に鳥居だらけ 神様だらけで 緑に包まれたこの神社の古さが自然と伝わってくる。





花山稲荷神社 刀匠三条小鍛冶宗近の鍛冶場伝承地 赤い玉垣で囲われた稲荷塚
この玉垣の中に稲荷塚の碑がある。 禁足地と思ったのですが、中に入れてもらえると後で知りました



花山稲荷神社の全景 google photo

花山稲荷
社殿

名刀子狐丸
伝鍛冶場跡
稲荷塚

南参道入口





花山稲荷神社から西の西野山沿いに出て
そこから南へ 大石神社・勸修寺へ
大石道を西野山(稲荷山)に沿って歩く 2016.6.3. 13:14



大石神社



高速道路京都線 山科入口



大石神社を出ると まっすぐ北の山並の頂上に 京大花山天文台が見える 13:26 こ
こから 南へ 稲荷山のふもとに沿って



回遊式庭園の美しさで知られる勸修寺

何とはなしに頭が覚えていた勸修寺 西野山(稲荷山)に沿って南に歩けば行き着くので、西野山walkのend pointに。

ぶらぶらと勸修寺へ なにかあるのだろうか? との興味半分

「春の桜・秋の紅葉 氷室池を中心とした回遊式庭園で有名 今は睡蓮と花菖蒲が美しい」と入口で教えてもらって、短時間でしたが、お庭を見学して帰りました。

花菖蒲 そして咲き始めた睡蓮が見事なお庭 ラッキーでした 2016.6.3. 13:51





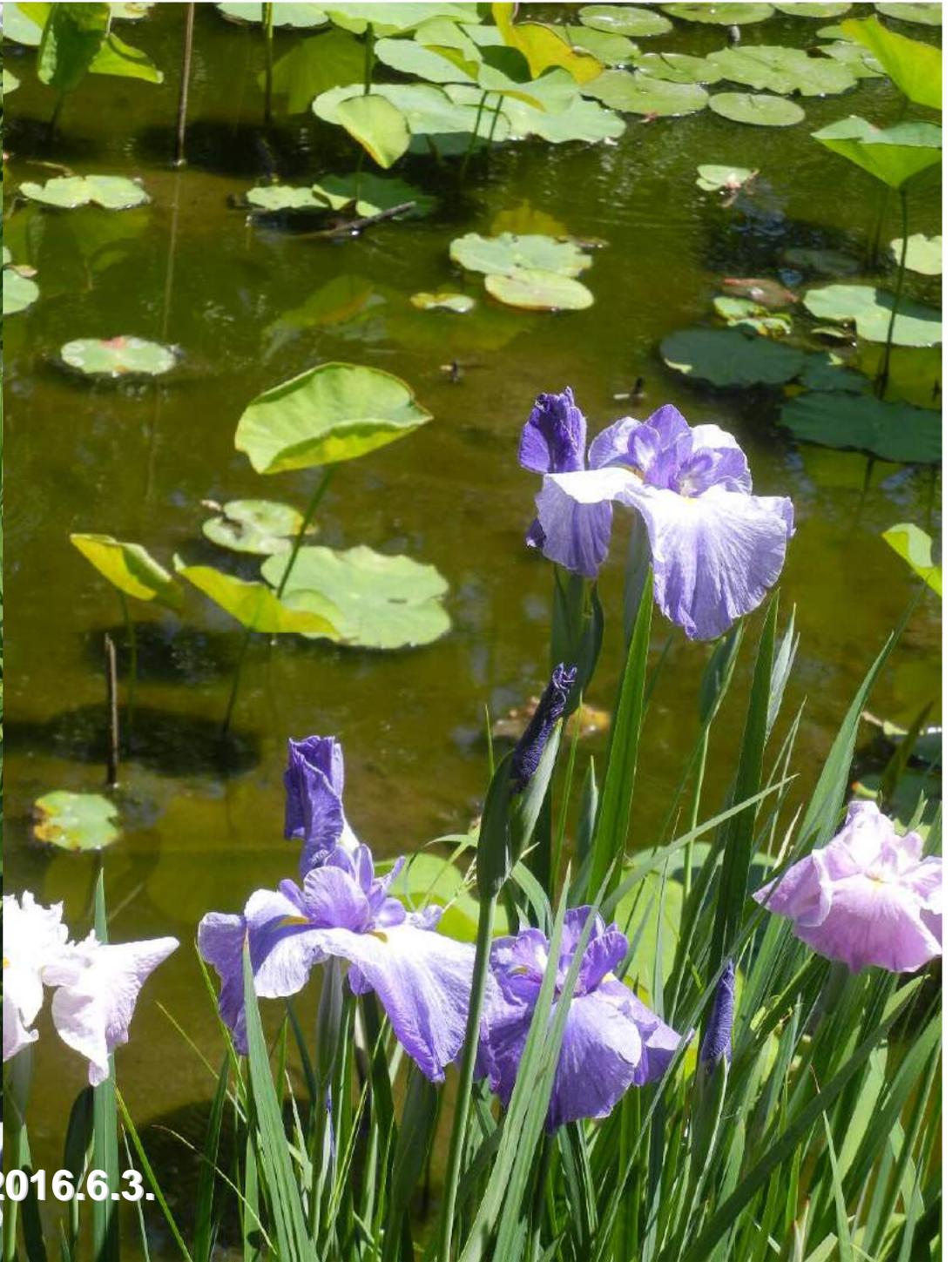
勸修寺の回遊式庭園 2016.6.3.



花菖蒲と睡蓮が咲き始めた勸修寺 回遊式庭園 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



初夏をつける半夏生もみつけました 勸修寺庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.

勸修寺を醍醐道に出て 西へ山科川を渡ると山科を南北に貫く京都外環状線との十字路
その地下に地下鉄小野駅があり、山科盆地の南西部 西野山walkも終わりに。
まだ、時間も十分 久しぶりに清水寺のアテルイ・モレの碑に出会いに行く。

「蝦夷の雄アテルイと坂上田村麻呂」の伝説 特にアテルイに惹かれて
たまたまTVでみた山科にある坂上田村麻呂の墓の映像を見て、山科西野山を歩こうと出かけてきたのですが、
近場で知っているようで よく知らなかった山科盆地。
歩いている間に次々と知らなかったことを教えてもらって、やっぱり 出かけてみるもんだと。
気にかかっていた山科の鍛冶伝承地 そして 稲荷信仰のレイラインにも出会えて 本当にラッキー。
じっくり、山科側から 稲荷山を眺めるのも初めて。次は稲荷信仰レイラインwalkも頭に。

京都市街へは地下鉄で行けるのですが、周りの景色がみられるバスで。
国道1号線 新幹線に沿いの国道1号線を通して東山越をして 京都の街に入ろう。

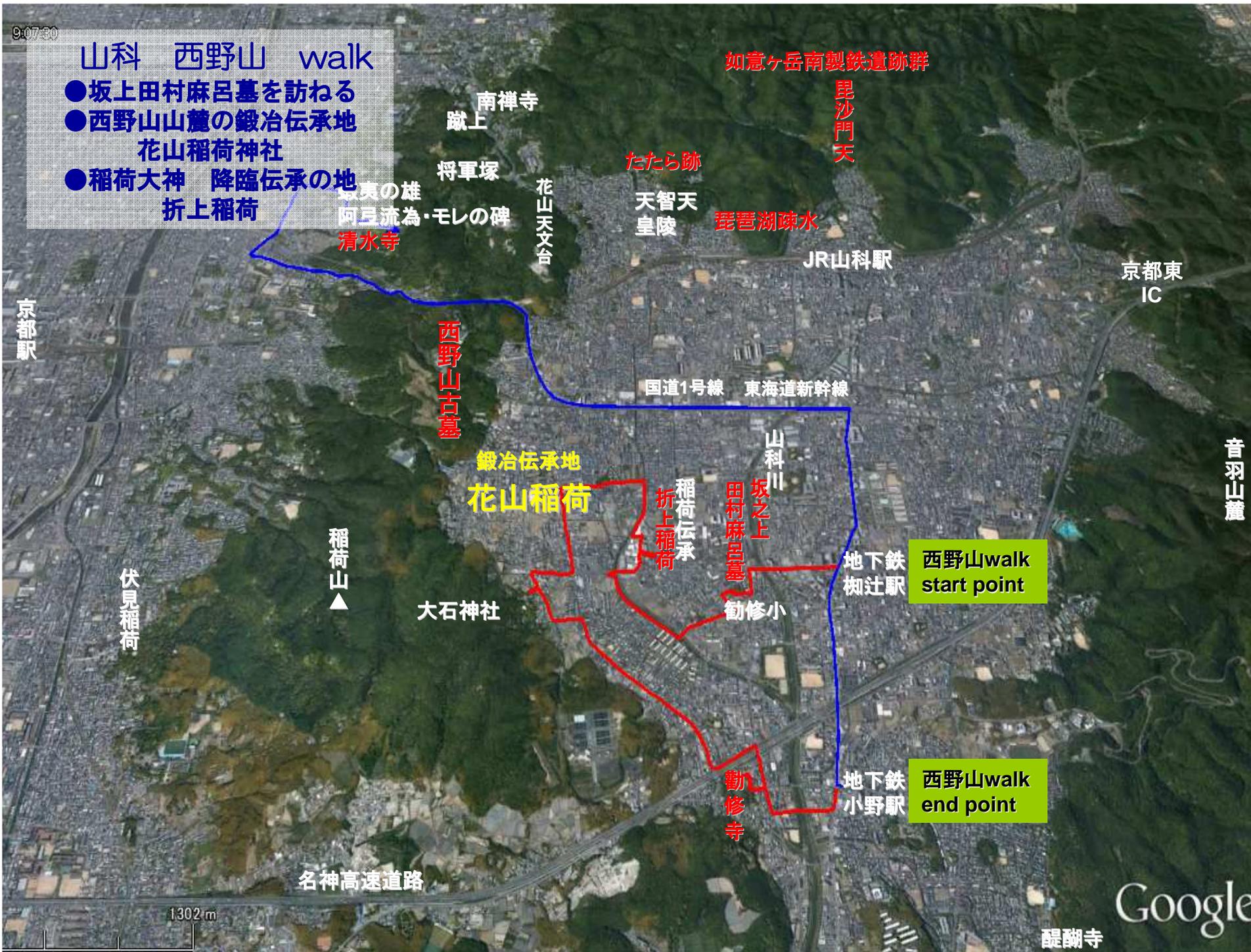


勸修寺横 醍醐道 山科川にかかる橋を渡って 小野駅前へ 2016.6.3. 14:15.

9:07:30

山科 西野山 walk

- 坂上田村麻呂墓を訪ねる
- 西野山山麓の鍛冶伝承地
花山稲荷神社
- 稲荷大神 降臨伝承の地
折上稲荷



京都 清水寺へ 山科から京都市街地へ バスで東山越





国道1号線をバスで京都市街へ 2016.6.3.





国道1号線東山越 旧道 渋谷街道への分岐 2016.6.3.
ここから、渋谷街道を通ってバスは馬町に下り、西大路通りを清水道へ
清水寺のアテルイ・モレの碑に出会いに行く



八坂の塔を眺めながら清水寺へ 坂を上る 2016.6.3. 16:20



清水寺前は観光客でいっぱい レンタルの着物姿で歩く外人たちが実に多い



清水の舞台から眺める京都駅から西山方面 2016.6.3.



清水の舞台の下 音羽の滝に列をなす人たちが見える 2016.6.3.
ここから右へ舞台の下を回り込めば アテルイ・モレの顕彰碑がある



東北の雄 蝦夷のリーダー アテルイ・モレの顕彰碑 2016.6.3. すぐ上に
清水の舞台が見上げられる





アテルイ・モレの顕彰碑 2016.6.3.



八世紀末頃より東北、北上川流域を日部氏國と云い、大和政府の勢力が漸く
 伸び、その生活と文化を形成して来た。政府は服属しない東北の民を叛夷と
 蔑視し、その経略のため数次にわたり巨万の征東軍を動員した。但馬一若手
 水天市地方の首領、大藏公阿豆流為は近隣の部族と連合し、この侵略を強
 に阻止した。なかも七七八九年の粟伏の戦いで、勇猛果敢に奮戦し、征東軍に多
 大の損害を与えた。八〇一年、後上田村麻呂は四方の將兵を率いる戦地に赴き、
 帰順策により胆沢に進出し、胆沢城を降した。阿豆流為は十数年にも及ぶ戦に疲
 弊した部族を愛慮し、同胞五百余名を捉えて、田村麻呂の軍門に降した。田村麻
 呂將軍は阿豆流為と副將、磐具、母礼を伴い、京都に帰還し、故実万両雄の武勇
 と器量を惜しみ、東北終營に登用すべく、政府に勅命を頒した。しかし、公使達
 の反対により、阿豆流為、母礼は八〇二年八月十三日、河内國で処刑された。
 平安建永千二百年に當たり、田村麻呂の悲願空しく、異郷の地で散った阿豆流為
 母礼の顕彰碑を清水寺の格別の厚意により、田村麻呂開基の同寺境内に建立す。
 両座もって冥さるべし。

一九九四年十一月吉日

関西胆江同郷会、アテルイと顕彰する会、
 関西若手県人会、京都若手県人会

アテルイ・モレの顕彰碑 2016.6.3.



清水寺を後にして 茶碗坂を下る 2016. 6. 3. 16:55



今の時代に通じる 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論 !!

NHK BS 英雄たちの選択「衝突！その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」

2016.5.26.

出演：磯田道史、赤坂憲雄、里中満智子、宮崎哲弥、鈴木拓也

時は平安遷都を行った桓武天皇の時代。遷都と並ぶ国家プロジェクトが東北の蝦夷の制圧だった。
大きな期待を背負い戦った坂上田村麻呂は、蝦夷のリーダー・アテルイを降伏させることに成功する。

しかし田村麻呂はアテルイから助命を要請される。

朝廷の大反発が予想されるなか命を救う行動にできるか、それとも処刑やむなしと突き放すのか？

国家の方針で蝦夷と衝突し、そして蝦夷の実像を知っていった田村麻呂の苦悩に迫る。

インターネット NHK オンデマンド PR コピーより

アテルイは東北では英雄であるが、他では「鬼」・「悪路王」・「逆賊のリーダー」であり、坂上田村麻呂は逆賊を制圧した英雄である。

敵のリーダーアテルイとモレの度量と人柄を評価していた田村麻呂は まだ帰順せぬ蝦夷たちへの説得工作も視野にあったのだろうと推察されるが、助命を嘆願するも、彼らの謀反を恐れる貴族たちの反対もあり、2人は処刑された。

この場面で、坂上田村麻呂の選択を支持するのか、それとも反対するのか？

4人のコメンテーターがどちらの選択をするのか？ コメンテーターの意見・討論で番組が進む。

「多分 東京や都市圏で仕事をする2人は処刑を選択し、地方で仕事する2人は助命を選択するだろう」と家内に話をしていたのですが、ドンピシャ。興味深々でつついテレビを見ていました。

当事者意識を捨て、一般常識的には 平和な暮らしが続いている蝦夷の人たちにとっては、突如 仰天の未知なる新しい社会秩序への選択を迫られたわけである。怒るのもあたりまえであろう。

でも勝手な都合からいうと 喉から手が出るほど新秩序に組み込みたい。「小を殺して大をとる」と。

この構図は沖縄問題・東京と地方・アフガニスタン&中東紛争 そして もっと直近では東京都知事問題にあまりにも極似していることに驚く。

右/左・2/1選択は当事者意識のぶつかり合い。必ずしも真ならず。

相手の暮らしを考えず、自分の暮らす社会の常識だけを判断根拠とする今の社会は本当に正しいのだろうか。

最後に東北学を提唱推進されてきた赤坂憲雄氏は「坂上田村麻呂・アテルイは 二人して次の時代を切り開いた英雄に違いない。これ以後 中央政権は秋田城・志波城をつくり、さらに北進してゆくが、武力での制圧を捨て、同化政策を採っていったことにも、大きな影響を与えたに違いない。現代社会も彼らに学ぶことがある」と結ばれたのが、強く心に残る。

久しぶりに聞く「アテルイ・坂上田村麻呂」。そして坂上田村麻呂の墓が山科西野山古墓と知って、晴天の6月3日 清水寺のアテルイ・モレの碑 そして山科西野山古墓に出会いたくなって、山科から京都へ出かけてきました。



蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂

和鉄の道・Iron Road <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf> Page3 より

8世紀末頃まで、東北北上川流域を日高見国といい、大和朝廷の勢力圏外にあり、独自の生活と文化を形成していた。当時 大和朝廷は服属しない東北の民を蝦夷と呼び、蔑視してその計略のため数次にわたり、巨万の征夷軍を動員した。胆沢(岩手県水沢市地方)の族長「アテルイ」は近隣の部族を連合して10 数年にわたりこの侵略を頑強に阻止した。中でも789年の巢伏の戦いでは勇猛果敢に奮闘して征夷軍に壊滅的な打撃を与え、蝦夷の英雄と称された。征夷大將軍となって東北に赴いた坂上田村麻呂は和戦量戦略を用いつつ、801年 数万の将兵を動員してアテルイを打ち破り、ここに蝦夷攻撃は終り東北経営の拠点として胆沢城が築かれた。

「アテルイ」は十数年に及ぶ激戦に疲弊した郷を憂慮し、盟友「モレ」と同胞500 余名と共に降伏、田村麻呂に従って平安京に上った。田村麻呂は蝦夷の両雄の武勇と器量を惜しみ、東北経営に登用すべく朝廷に助命嘆願したが、公家たちに反対され、「アテルイ」「モレ」の両雄は802年に河内の国で処刑された。

田村麻呂は深く帰依し、造営につくしたゆかりの「清水寺」でこの二人や敵味方の将兵の霊にその誠を呈して祈念を重ねたという。また、清水寺の後には京都東山連邦が連なり、その中央部のなだらかな山の上に「將軍塚」がある。

將軍塚からは京都全体が一望でき、桓武天皇が平安京造営を決断した場所といわれる。

そして、長く都を護る祈りを込めて土の武将像・坂上田村麻呂を作り、その甲冑を着せ、鉄の弓矢・太刀を持たせてここに埋めたといわれ「將軍塚」の名がついた。山の中央部にその古い円形の將軍塚があり、また頂上部の大日堂にはこの山から出土した平安初期の大日如来石像が祭られている。

なお、坂上田村麻呂の墓は京都市山科区にある坂上田村麻呂公園内にある西野山古墓が墓所と推定されている。

平安後期編纂の「清水寺縁起」に墓の位置を「山城国宇治郡七条咋田西里栗栖村の水田、畑、山を与える」という文言があり、この場所は今の山科区西野山岩ヶ谷町にあたり、西野山古墓の場所と一致するという。

西野山古墓は清水寺から南東約2キロの山科盆地西部にあり、8世紀後期から9世紀前期と見られ、田村麻呂の時代と一致する。大正8年に墓穴が見つかり、内部から、武人の墓にふさわしい純金の装飾を施した大刀や金銀の鏡、鉄の鏃などの副葬品が出土し、京都大総合博物館に所蔵されている。

一番最初にアテルイの名が出てくる「続日本書紀」では「賊帥夷阿弭流為 賊の大將 蝦夷のアテルイ」となっているのが後の編纂になるや「類聚国史」や「日本紀略」では「夷大墓公阿弭流為」と「公」という姓を与えられ、蝦夷の統率者として遇されており、その人物像には多くのなぞが残されていて、かつ 魅力的な人物である。

一般歴史では「悪路王」と呼ばれ、田村麻呂の影で悪者とされてきた「アテルイ」であるが、東北では自分たちのオリジンとしての連帯の中「坂上田村麻呂を信じ、更なる騒乱による犠牲と荒廃をさけて自ら投降し、平和共存を願うアテルイ」と広くを愛してきた。そして、平成6年にアテルイの復権に賭けた人たちの熱い運動で、田村麻呂ゆかりの京都清水寺の境内に「アテルイ・モレ」の顕彰碑が建てられた。

■ 参考 「和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪【Ⅳ】」6.蝦夷の鉄 東北 和鉄の道

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/4iron06.pdf>

■ 参考 「蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂」

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf>



蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」への東北の人たちの強い連帯感

古代東北は資源王国。この東北の資源をねらって大和朝廷の蝦夷征伐が始まった。

蝦夷たちが手にした蕨手刀は弧状にそり、切る刀への日本刀のルーツ。戦いに敗れた蝦夷の技術集団は俘囚となって、日本各地に散らばって、たたら製鉄・刀鍛冶の技術を日本全国に広めた。出羽鍛冶・舞草鍛冶などの名が広く日本各地に残る。

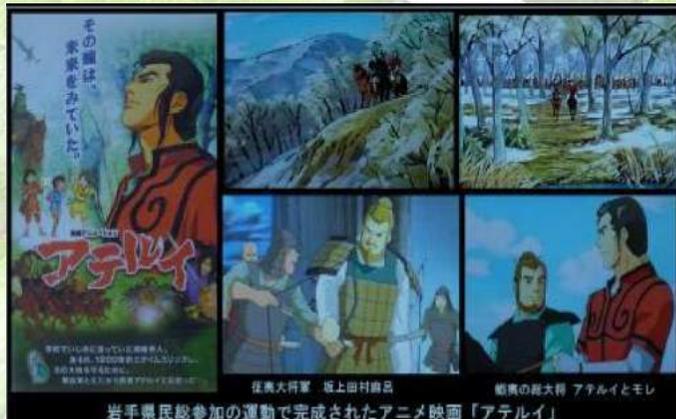
「アテルイ」の実像を示す資料はほとんど残されていないが、アテルイ復権の運動が今も広がっている

東北に通って「和鐵」について歩いているうちに「日高見の鬼」と呼ばれる蝦夷の族長「アテルイ」に東北の人たちが親しみを込め、熱っぽく語るその人物像ならびに「アテルイ」への強い連帯にビツクリ。

アテルイの生涯と蝦夷の戦いを熱っぽく描いた盛岡在住の高橋克彦氏の小説「火怨」があり、

東北人の思いを込めたアニメ映画「アテルイ」の原案でもあり、

東北人で語られてきた「蝦夷観」「田村麻呂と蝦夷との交流」ほか当時の東北の事情が良く描かれている。



「アテルイは親・兄弟を愛し、美しい自然を愛すために生きた。
21世紀の人間がどう生きるかという大切なメッセージがある」

岩手県民総参加製作の長編アニメ映画「アテルイ」のメッセージより

岩手県北上市の市民憲章より

「あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の讃歌

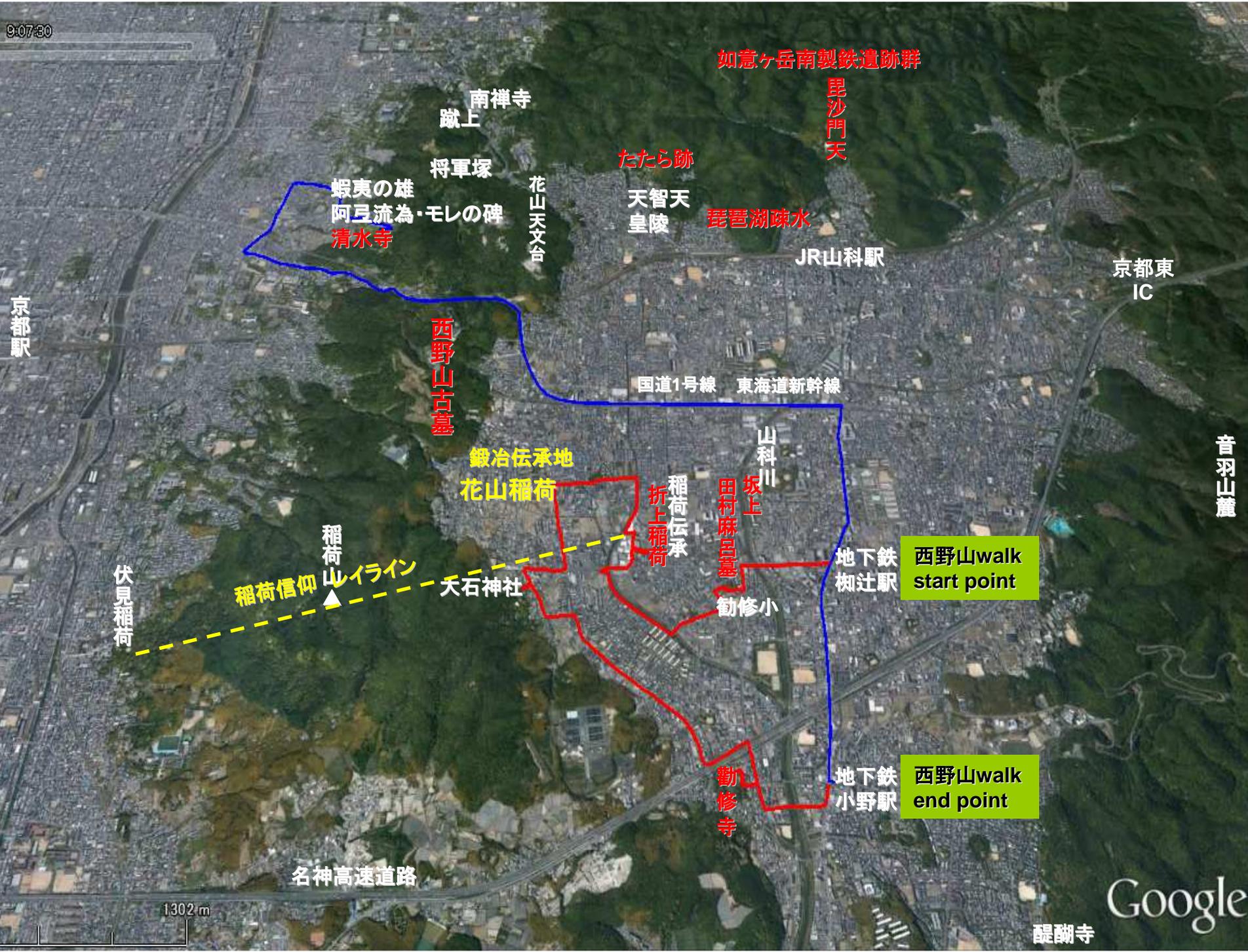
この台地 燃えたついのち ここは北上」

北上市市民憲章
あの高嶺 鬼住む誇り
その瀬音 久遠の讃歌
この大地 燃えたついのち
ここは北上



清水寺にあるアテルイ・モレの顕彰碑

9:07:30



如意ヶ岳南製鉄遺跡群

毘沙門天

南禅寺
蹴上

たたら跡

將軍塚

花山天文台

蝦夷の雄
阿豆流為・モレの碑
清水寺

天智天皇陵

琵琶湖疎水

JR山科駅

京都東IC

京都駅

西野山古墓

国道1号線 東海道新幹線

鍛冶伝承地
花山稲荷

山科川
坂上

稲荷伝承
折上稲荷

田村麻呂墓

地下鉄
柳辻駅

西野山walk
start point

稲荷山ライン
稲荷信仰

伏見稲荷

天石神社

勸修小

地下鉄
小野駅

西野山walk
end point

勸修寺

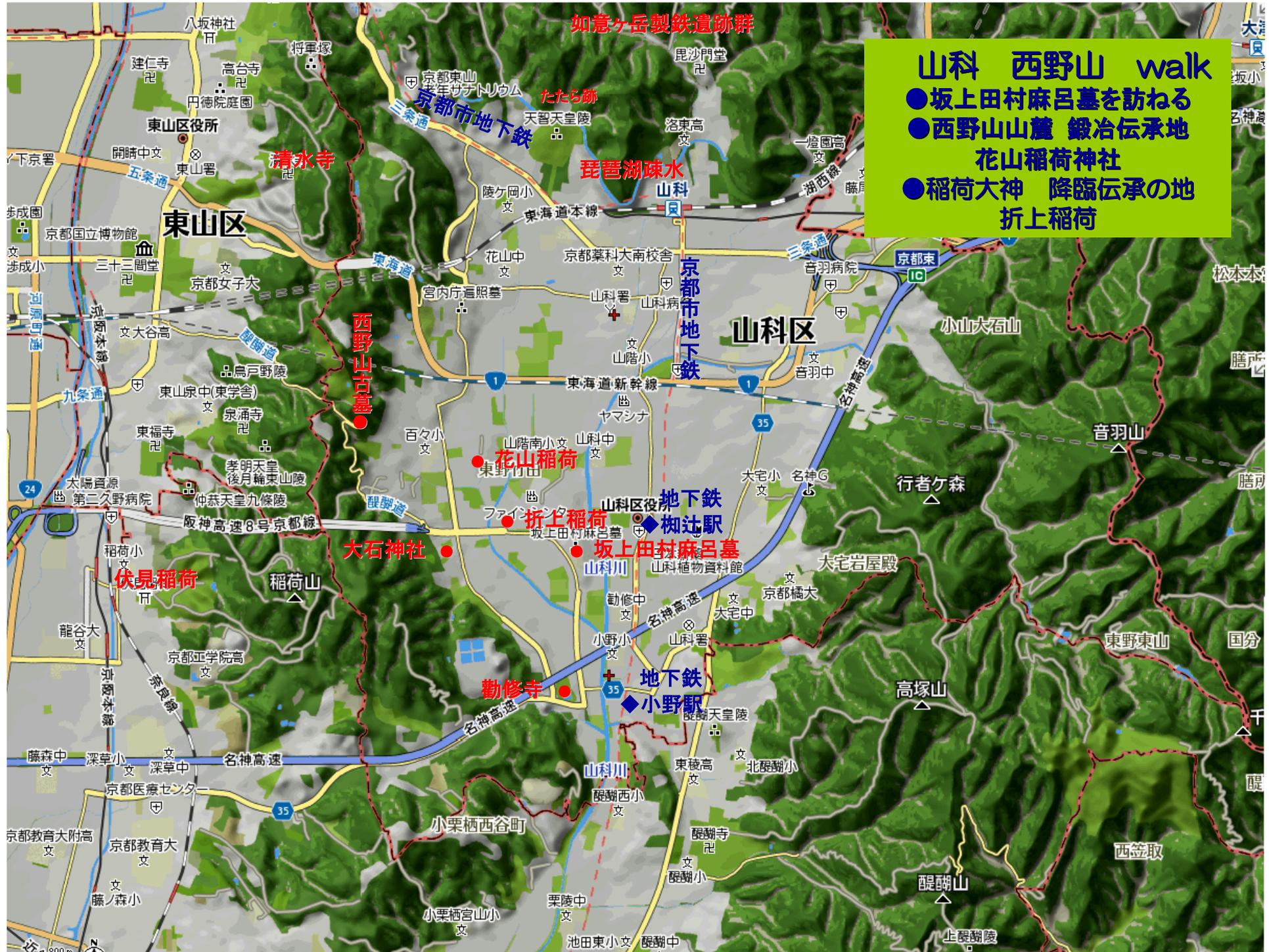
名神高速道路

1302m

Google

醍醐寺

音羽山麓



如意ヶ岳製鉄遺跡群

山科 西野山 walk
●坂上田村麻呂墓を訪ねる
●西野山山麓 鍛冶伝承地
花山稲荷神社
●稲荷大神 降臨伝承の地
折上稲荷

東山区

山科区

西野山古墓

花山稲荷

折上稲荷

大石神社

坂上田村麻呂墓

伏見稲荷

勤修寺

小野駅

西笠取

< 参考資料 >

NHK BS 英雄たちの選択 「衝突！その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」2016.5.26.

出演：磯田道史、赤坂憲雄、里中満智子、宮崎哲弥、鈴木拓也

【和鉄の道・Iron Road by Mutsu Nakanishi】

蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂

- 1. 「和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪【IV】」 6. 蝦夷の鉄 東北 和鉄の道
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron06.pdf>
- 2. 「蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂」
<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/1603tpb01aterui.pdf>
- 3. From Kobe 2008 年2月 日本人の祖先の一部 節分の「鬼」
<http://www.infokkna.com/ironroad/2008htm/2008mutsu/fkobe0802.pdf>
- 4. 「蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂」
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf>

山科の製鉄関連遺跡関連

- 1. 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる
<http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/2013iron/13iron12.pdf>

【和鉄の道・Iron Road】山科 西野山 walk 2016. 6. 3.

●坂上田村麻呂墓を訪ねる ●西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社

< おしまい > by Mutsu Nakanishi

NHKBS 英雄の選択を見ていて、坂上田村麻呂・アテルイについての討論を聞いて、また 無性に懐かしくなって山科西野山の坂上田村麻呂の墓・清水寺のアテルイ・モレの碑を訪ねました。

このスタートに降り立った京都地下鉄樹辻駅の通路にあった紹介パネルで知った名刀「小狐丸」の伝承が残る山科花山稲荷にも合わせて訪ねました。

山科は京都の市街地に隣接して、北に比叡の山並み 西側には東山から稲荷山 東側には逢坂山・音羽山から醍醐の山々に囲まれた盆地で、唯一開けた南は宇治。 京の都と諸国を結ぶ交通の要衝であり、天地天皇陵をはじめとする王城の地でもあった。

和鉄にとっても、盆地の北部 大文字山・比叡と続く山並みには鉄鉱石があり、北側山麓には古代のたたら跡など如意ヶ岳南製鉄遺跡群が点在する製鉄地帯である。また、琵琶湖と京都を結ぶ琵琶湖疎水や東海道の山科の宿などもあり、何度も出かけたことがあるのですが、盆地中央部から南へは通過するばかりで、よく知らぬ場所。一度歩きたかった西野山山麓walk 合わせて 稲荷山越の道もさがそうと.....

山科 西野山 walk ルート概要

● 京都から山科へ

四条烏丸 == 地下鉄南北線御池駅乗換 == 東西線で山科へ
== 山科樹辻駅下車

● 山科 西野山 walk

山科樹辻駅・新十条通・山科川・勧修小・
坂上田村麻呂公園・折上稲荷神社・旧安祥寺川畔・
花山稲荷神社・大石神社・勧修寺・地下鉄小野駅

● 山科から京都東山 清水寺 アテルイ・モレの碑

地下鉄小野駅前 == 京阪バス 国道1号線 == 京都五条坂
清水道・清水寺・アテルイ・モレの碑



近場で知っているようで よく知らなかった山科盆地。
歩いている間に次々と知らなかったことを教えてもらって、やっぱり 出かけてみるもんだと。
気にかかっていた山科の鍛冶伝承地 そして 稲荷信仰のレイラインにも出会えて 本当にラッキー。
じっくり、山科側から 稲荷山を眺めるのも初めて。次は稲荷信仰レイラインwalkも頭に。